

1. 活動報告（事務局 記）

—12月29日（火）非定常作業として、春3月に菌打ちを行う水樋の原木を切り倒しました。本来は切った原木の水分を抜くため、そのまま放置して2月の初めごろ1mの寸切りを行なうのがベターですが、小学校側の通路に倒れましたので1mに寸切りにして、原田家の山中にて一時保管しました。参加者 吉富会員・金子会員と原田でした。

—1月7日（木）林会員から水車の異常音の連絡が有り、林さんと原田でグリースを注脂したところ音は消えましたが、軸受け（ベアリング）部の破損又は軸部の摩滅による主軸が少し下がっているように見受けられますので、9日の作業日に点検します。

—1月9日（土）作業前に来年度の日程について協議し、本年初の現場活動を実施いたしました。参加者は18名でした。

①階段の修復：溜池から湿地帯に下る階段をコンクリート塊を用いて修復いたしました

②水車の点検：水車のシャフト周辺を点検し、修繕必要箇所の確認をおこないました

③水路の補修：落葉・小枝の水路流入を防ぐ為、柵を設置しました（水車流出口下流部）

—1月16日（土）アクトビレッジおのにて「生物多様性市民会議～みんなで考えよういきものきずな～」が開催され、管会員が「親子自然観察隊」の活動事例報告をされました。原田・岡村・松本・河本・松原・原谷会員が出席しました。

—1月23日（土）参加者は15名でした。作業内容は以下の通りです。

①階段の修復：前回作業の続きとして、溜池から湿地帯に下る階段を完成いたしました
コンクリート製の頑丈な階段となっております

②湿地の除草：湿地帯最上流部に茂っていた雑草を鎌を用いて刈り取りました

また、作業前に以下の件について協議いたしました。

- ・“うべまるごと元気ネットワーク”への参加
- ・水車シャフト交換の外部委託
- ・市民センター使用の有料化
- ・今後の、会員および作業ボランティアの獲得手段

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

◎行 事

—2月7日（日）維持活動・エコアップ

—2月20日（土）維持活動・エコアップ・椎茸原木に菌内作業

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声-1【ボランティア活動に関するフォーラム2件に参加して】事務局長 関根雅彦 はじめに

昨年末の収穫祭に臨席された久保田市長から、活動の継続のためには新会員の勧誘や資金調達の多様化をすすめるべきとの趣旨のお話をいただいています。もとより我々自身がその必要性は認識しており、今年は気持ちを新たにこの課題に取り組むこととしています。筆者は昨年末2件のボランティア活動に関連したフォーラムに出席しましたが、この件について参考になる点もありましたので報告しておきます。

1. きらめきジョイントフォーラム

山口県婦人教育文化会館で11月7日に開催され、県内のいろいろな活動団体の交流会や展示などがありました。筆者は午後に行われた講演会だけ参加しました。タイトルは「目からうろこのボランティアのカタチ」、演者は(公財)あいちコミュニティ財団代表理事 木村真樹氏です。市民や地域企業から出資を募って「市民コミュニティ財団」をつくり、NPO等への融資と伴走支援(立ち上げから社会的認知・行政からの認知を得るまでの間、運営方法などを指南する)を行っているとのこと。つくる会の場合、行政からの認知はそれなりに得ていますが、新人勧誘などの運営方法については指南してもらいたいものだと感じました。

印象に残ったお話としては、

- 活動内容をアピールしてもだめ。活動によって「解決したい問題」をアピールする。
- 宛名のないラブレターは届かない。誰を仲間に入れたいかを明確に意識する。
- 参加者にはいろいろなレベルがあることを意識する。入門者にとっては、「一度足を踏み入れたら抜けられなくなる」という意識が大きなバリアになる。「期間限定」「結果の分かりやすさ」「チームで取り組む」でボランティアをマネジメントする。

などがありました。メインの資金集めのお話など、詳細は資料をご覧ください。同時に、山口県の支援窓口も紹介されていました。

フォーラム資料：

<https://dl.dropboxusercontent.com/u/10806964/151107KiramekiForum.pdf>

やまぐち社会貢献活動支援ネット：

<http://www.kenmin.pref.yamaguchi.lg.jp/boronet/>

2. 「つなげよう、支えよう森里川海」ミニフォーラム in 防府

防府グランドホテルで12月21日に開催されました。環境省の上記プロジェクトの広報と全国の活動の発掘が目的のようです。森里川海の中で遊ぶ子どもが絶滅危惧状態だという危機意識から、プロジェクトの目標を「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す」「一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくる」としています。筆者も関係している樫野川河口域・比嘉多自然再生協議会を「里海の再生」活動の成功例として紹介していました。

プロジェクトの内容はまだ確定していませんが、つくる会のような地域団体が、今後設立される地域協議会に属して活動方針やプログラムの検討・評価を受け、企業や国民全体に広く少額の負担を募って資金的サポートを受けることができるしくみを作る、ということのようです。1. で述べた愛知県の事例の全国版ですね。制度設計には2～3年かけるとのこと、すぐに支援が始まるわけではありません。末尾にURLを記したフォーラム資料には、「賛

同登録申請書」がついており、おそらくこれに登録することで、今後の地域協議会メンバー候補者リストを作成するつもりなのだと思います。

以前環境省が国交省などと組んで制定した自然再生推進法で、協議会をつくって自然再生を計画すれば行政が支援すると言っておきながら、実際に支援があったのは最初だけ。ハシゴを外された！という苦々しい思い出が筆者にはあります。（前出の榎野川協議会の話です。）自然再生推進法の「市民コミュニティ財団」版を環境省独自で性懲りもなく始めようとしている！筆者はそのように感じたため、つくる会はフォーラム会場では賛同登録申請をしませんでした。また、活動主体にとっての資金獲得以外のメリットが見えづらく、地域協議会に力を割かれる恐れもあります。

しかし、つくる会の活動自体はこのプロジェクトの趣旨にピッタリ当てはまります。先入観にとらわれず、今後の推移を注視していく必要はあります。さしあたり、情報収集のために賛同者として手を挙げておくかどうか、会としての姿勢を決めなければならないと思っています。

フォーラム資料：

<https://dl.dropboxusercontent.com/u/10806964/151221MoriSatoForum.pdf>

環境省 HP：

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/>

おわりに

今回のフォーラムに限らず、つくる会のような活動をサポートするしくみは大小・新旧いろいろありますが、活動継続のためには、身の丈+ α で無理なく続けられる方法を選択していくことが大切だと考えています。会員みんなで知恵を出し合っていきましょう。

会員の声—2 【バチあたりな“どんと焼き”】（原田満洲夫 記）

ビオトープの所在地二俣瀬も他地域にたがわず、“どんと焼き”が1月10日実施された。我がビオトープをつくる会も東屋で1年の安全祈願を含めたしめ縄を外し他にも我が家の大麻・お守り・しめ縄も奉出し厄よけ神事を行っていただいた。今年もより良い年になることと信じている。

二俣瀬地域もあちこちから同じ気持ちでしめ縄や古い当麻・お守りを持ち寄り厄よけをしていただいている。ここで罰当たりなことは9時から神事が開始されるといわれているのにあとからあとから時間を過ぎ神事が行われている最中はともかく神事が終わり神官様がお帰りになった後からや、すでに火が消えかかっているのに持ち込む人がいた。この人たちの考え方は粗ごみを処分して頂くか、家の中の片づけが主なのかどうかかえる。本当に情けない。

どんと焼きの主催は「放課後子ども教室協議会」であるが小学生のイベントで特に小学生の親御さんがこの中に居られた事が非常に残念であった。この人たちに大きな声で、「お払いも済んでいるのでもう厄よけにはならないから持って帰りなさい！」と言えなかった自分に腹が立ち、この日一日気分の悪い思いだった。

“言いたい事 言えぬ自分に 腹が立ち”

5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

今月より新しくスタートします「山口県の昆虫たち」シリーズです。昆虫にはトンボのほかカチョウ類（ガ類）、甲虫類（カブトムシ、クワガタムシ、コガネムシ、カミキリムシ、ゾウムシなど）、アブ・ハチ・アリ類、カメムシ類、水棲昆虫類（ゲンゴロウ、タガメなど）ととても多くの種類が生息しています、その中でも筆者がカメラでとらえた一部の昆虫類をランダムに紹介させていただく予定です。

トンボ以外の昆虫類は生態研究をしておりませんので、詳しい解説は出来ません。撮影時の状況などの説明はいたしますが、それ以上の情報が知りたい方は、皆さんで図鑑を調べたり、インターネットで検索していただきますよう、始めにお断りしておきます。

(1) ウマノオバチ *Euurobracon yokohamae* Dalla torre

ハチ目 コマユバチ科

体長：14～24mm（全長：200mm前後）

分布：本州、四国、九州

環境省ランクでは準絶滅危惧種であり、山口県では“情報不足”とされていましたが、2014年、2015年と「山口むしの会」が意識して調査を進めた結果、県内のほぼ全域で確認され、“普通種”に近い昆虫ではないかと思われるようになりました。特に♀は長い産卵管（10～15cm）が特徴的な珍しいハチで、産卵管を加えると日本最長の昆虫です。主にクリやクヌギの木に生息する「シロスジカミキリムシ」の幼虫に産卵し寄生する“寄生バチ”で、管理の行き届いていないクリの木林やクヌギ林でよくみられます。

初夏から夏場が多く、カミキリムシの幼虫の入った穴の周囲に飛来し幹に取り付きうろろしていますのですぐわかります。ただし、無断で園内に入らないようにしましょう。必ず持ち主の許可を得てください、思わぬトラブルになります。



5月28日 カミキリムシの穴をのぞく♀



産卵管の手入れ

6. 会よりの連絡事項

1. 2月20日（第三土曜日）の活動日に椎茸菌を原木に打ち込み養生保存します。
平成27年度の活動計画表に記載忘れをしていました。
原木は1m長さに切り、保存しています当日ビオトープに持ち込みます。

7. 編集後記

今年の初参集は東屋でのミーティングから、その後早速維持活動。参加18名、いつもの活動日より多い顔合わせとなりました。各々作業予定の場所に分散し手際よく仕事をこなせた初活動でした。例年は、室内での会議で始まり、みんな歳を重ねこれから大変になっていくのではと感じるこの頃でしたが、活気に満ちた姿を目にしてまだまだそんな事はないと思える1年の仕事始めでした。

（ 松本 フデ子 記 ）